

消防だより

火の用心

Tokamachi Fire Department

No.106



令和4年12月5日

特集

地震時の行動

災害発生時、何よりも重要なのは自分や家族の大切な命を守ることです。取るべき行動は、状況によっても異なります。いざというときに備えて、どんな行動をとればいいのか知っておきましょう。

写真：認定こども園あおのもり避難訓練

もしものときの逃げる場所は!?

東日本大震災を教訓に災害対策基本法が改正され、「指定緊急避難場所」と、「指定避難所」を指定することが定められました。いつ起きるかわからない災害に対して、自分の住む地域の避難場所や避難所をあらかじめ確認しておきましょう。

指定避難所



例：津南小学校

災害の危険がなくなるまで、必要な期間滞在、または災害により自宅へ帰れなくなった住民が一時的に滞在する施設のこと。学校や体育館、公民館などの公共施設があります。

指定緊急避難場所



例：キナーレ駐車場

災害から命を守るため、緊急的に避難をする場所です。災害の種別ごとに指定され、土砂災害においては頑丈な建築物、地震などでは学校のグラウンドや駐車場などがあります。



指定避難所には、通信手段確保及び帰宅困難者の連絡手段確保のため、無料で利用できる災害時用公衆電話が増設されます。

避難場所と避難所を確認しておきましょう!!



十日町市

津南町

職場や公共施設で非常ベルが鳴ったら落ち着いて、そのあとの放送をよく聞き、建物内の現状を把握してから避難を開始しましょう。



しずかに、おちついてひなん...

大地震時の行動

家の中

- クッションやバッグなど、近くにある物で頭を守る、またはテーブルの下などの空間に逃げ込む。
- コンロや暖房器具は、強い揺れが収まってから消す（揺れを感じると自動的に消火するものも普及）。
- 避難の際は、割れた窓ガラスや照明器具の破片に注意。

エレベーターの中

地震が起きたと思ったら、すべての階のボタンを押して、いちばん早く止まった階で脱出しましょう。閉じ込められた場合は、非常用のインターホンなどを使い、外部と連絡を取り、救出を待ちましょう。

運転中の車内

急ブレーキ、急ハンドルは危険です。ハザードランプを点灯して徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車して揺れが収まるのを待ちましょう。車から離れる際は、緊急車両の通行の妨げにならないよう鍵をつけたままにしましょう。

公衆電話のススメ

災害発生時、固定電話や携帯電話などがつながりにくくなることもあるので、その際の緊急通報は公衆電話をお勧めします。いざというときのため、お近くの公衆電話の位置をあらかじめ知っておくと良いでしょう。

過去の教訓を生かし、事前に非常用持ち出し物品を用意したり、避難場所、避難経路を確認するなど、今できる最低限の備えをしておきましょう。



救急

救急件数過去最多!! 救急車の適正利用をお願いします

救急車がたりません!
全国で救急車の出動回数は
5.1秒に1回
本当の救急?

救急車は年間約619万件も出動しています。台数には限りがあります。本当に必要な人のために救急車の適正利用にご協力をお願いいたします。

救急車の適正利用とは?
スマートフォンでアプリ
登録は無料の2次元コードを
読み取って救急車着任時間短縮
サイトへアクセスしてください。

一般財団法人 全国消防協会

令和4年中の救急件数が、11月時点で昨年一年間の件数を上回り、過去最多となっています。

この背景のひとつとして、病院に搬送しても、入院を必要としないと診断された「軽症者」の割合が大きいためにあげられます。軽症者の割合が増えることは、真に緊急で重症な方のところに救急車がすぐに向かえなくなりやすくなります。

救急車を呼ぶか迷ったときは、下記の救急医療電話相談やアプリなどを活用してください。

電話相談 (19時~翌8時)

救急医療電話相談
対象: 大人 (15歳以上)

#7119

小児救急医療電話相談
対象: 15歳未満のお子さん

#8000

相談アプリ (24時間)

全国版救急受信アプリ「Q助」

AI 救急相談アプリ

LINE で友達追加するだけ

表彰

小学生防火標語表彰式

新潟県消防協会十日町地区支会主催

令和4年11月9日(水)、十日町消防本部において「小学生防火標語表彰式」が行われ、管内16小学校の4年生364名の応募作品(イラスト、防火標語)の中から次の4作品を選出し表彰しました。



最優秀賞

「火遊びで 家族の思い 消さないで」

優秀賞

「コンセント タコ足配線 危険だよ」

優秀賞

「だいじょうぶ! その一言が あぶないよ!」

優秀賞

「幸せも 小さな火から 消えていく」

赤色灯

「ヒートショック」

ヒートショックとは、急な寒暖差が原因で意識を失ったり、心筋梗塞や脳梗塞などを引き起こしたりすることです。寒い冬の季節は、脱衣所と浴槽の温度差が原因でヒートショックになる可能性が高くなります。こうしたことを予防するため、いくつか対策を紹介します。

- ① 暖房器具を使い、脱衣所や浴室を暖かくする
- ② 入浴の前後に、コップ1杯の水をとる
- ③ 入浴時間は、汗ばむ程度にする
- ④ 飲酒後の入浴を避ける

快適に入浴を楽しんでいただくために、ぜひこの4つの対策を実践していただきたいと思えます。

【池田】



消防だより
火の用心



発行 十日町地域消防本部 〒948-0007 新潟県十日町市四日町新田1-4-1番地
編集 総務課企画広報係 電話 025(757)0119 FAX 025(757)8499
ホームページ http://www.tokamachi-kouiki.jp/ E-mail ttd119@tokamachi-kouiki.jp